茨歯会報

No.543

茨城県歯科医師会

Ibaraki Dental Association

June
2014
平成26年
6

茨歯会報 No.543

Ibaraki Dental Association
公益社団法人 茨城県歯科医師会

Contents

デンタルアイ 1
長谷部　和　子

理事会報告 3

会務日誌 4

学術委員会だより 6

介護保険委員会だより 17

学校歯科委員会だより 19

センターだより 21

専門学校だより 23

地区歯科医師会だより 25
櫻　井　　勝

地区通信 28

リレー通信 31
人　見　智　行

レディースコーナー 33
鈴　木　麻里子

追悼 35

会員の異動 36

国保組合 NEWS 37

茨歯アンテナ 38

お知らせ 40

赤えんぴつ 41

表紙写真について

昭和の森公園
オランダのキューケンホフ公園をモデルにした公園です。
四季の花々が咲き乱れています。4月の桜、チューリップ、ポピー等々、都会のオアシス（休息の場所）です。
一度おすすめの場所です。
青梅線西立川駅下車です。
（社）茨城県南歯科医師会　斉藤　澄夫

ホームページアドレス
http://www.ibasikai.or.jp/

DENTAL eye

学校における
今後の健康診断の在り方

理事
長谷部　和子

天候不順・異常気象と毎年のように言われていますが、遅い・早いがあるにせよ、新年度には桜が咲き気分一新し、新しい仲間を迎え、青葉の季節を迎えます。この季節、学校においては定期健康診断の時期となります。学校保健施行規則により毎年６月30日までに行うものとされていますので、学校歯科医の先生方の今年度の最初の業務はなされたことと思います。

さて、子どもたちの健康診断については平成６年に学校保健法施行規則が大幅に改訂され、学習の妨げとなるような疾病の早期発見・早期治療のために疾病の発見に重きを置いていたものから、健康の度合いをチェックするスクリーニングとなりました。そして歯科においては、「ＣＯ」「ＧＯ」の概念がはいり、口腔機能の健全育成を図るための歯列・咬合・顎関節の診査並びに歯垢・歯肉の状態も診査することになりました。

子どもたちを取り巻く社会環境や生活様式の変化に伴い、子どもたちの健康に関わる課題も変化し、おおよそ10年ぶり（平成18年）に健康診断の改正があり、日本学校保健会から「児童生徒の健康診断マニュアル（改訂版）」が発行され、生活習慣病への取り組み、咀嚼の問題、スポーツ歯学、児童虐待など従来のむし歯中心の歯科保健から大きく改革がなされ、新しい時代に対応した学校歯科保健の在り方が示されました。

さらに文部科学省において、平成24年から「今後の健康診断の在り方等に関する検討会」が発足し検討がなされました。総論においては、学校における健康診断は、家庭における健康観察を踏まえ、学校生活を送るにあたり支障があるかどうかについて、疾病をスクリーニングし健康状態を把握するという役割と、学校における健康課題を明らかにして健康教育に役立てるという、大きく二つの役割があるということを学校関係者や保護者間で共通の認識をもつことが重要である。また、事後措置は非常に重要であり適切に行われるような取り組みをすることが求められる。歯科保健においては、実際に口の中が見えることから、歯の状態に応じたみがきかたや食物摂取のあり方等に関する指導を通じて、子どもの自己管理能力を育てることができるなど、子どもや保護者の健康教育にとって重要な役割を果たしている。子どもの健康診断の結果を踏まえて、学校全体の健康課題の分析や課題の抽出、それに対する取り組み、またその到達具合を検証するにあたって、学校保健委員会や健康相談の機能は重要である。学

校、家庭、学校三師、地域等が連携して健康課題に取り組んでいく必要があることなどが答申されました。各論では、歯と口腔の領域については、歯科検診における結果を踏まえ、歯と口腔の課題だけでなく健康そのものの保持増進を図るという取り組みが必要。すなわち、生活習慣病の予防という観点にも注目し、健康相談や保健指導と関連させながら、歯科検診の更なる充実を図ることが必要となる。「疾病発見型のスクリーニング」ではなく「健康志向（健康増進）型のスクリーニング」であることに意義がある。今後は、歯列咬合及び顎関節についても大きな課題となる。これらは、「食べ物を取り込み、食べる」機能、「表情をつくり、話す」機能及び「運動を支え、体のバランスを取る」機能等に関わっており、生活の質に関係してくるため、学校歯科医はもちろん教職員にもその重要性の共有が求められるとされました。

文部科学省は４月30日、学校保健安全法施行規則を改正し、学校での健康診断の項目から「座高測定」と「寄生虫卵検査」を外し、2015年度限りで廃止されます。座高測定は戦時体制下の1937年、「胴長は健康」と考えられ始まったようですし、寄生虫卵検査は1958年に始まりましたが、下水道の整備や化学肥料の普及で保有率は激減し、関係者の間で実施を疑問する声が出ており、健康診断の在り方等検討会で答申されて決定されました。実際の歯科検診に係る検診項目や検診基準につきましては、まだ具体的なことは決定しておりません。変更等がありましたら、研修会等の開催も視野に入れて速やかにご連絡をいたします。

施行規則の一部改正の詳細は、県歯ホームページ→会員専用→学校歯科委員会に掲載してありますので、ご覧ください。

※今般、８年ぶりに改訂した「児童虐待への対応……歯科マニュアル」を作成し配布しました。我々歯科医は学校歯科健康診断はもとより、地域の乳幼児健診並びに日々の日常診療において、児童虐待を疑わしめる事態に遭遇することは十分考えられます。マニュアルの活用が児童虐待防止の一助となれば幸いです。

理事会報告

第２回理事会

日時　平成26年５月22日（木）午後３時
場所　茨城県歯科医師会館　会議室

１．報　　告

(1) 一般会務報告
(2) 住民税の特別徴収について
(3) 小児医療福祉制度の改正に伴う公費負担番号の変更について
(4) 疾病共済金の支払いについて
(5) ５月開業予定の歯科医院について
(6) 第１回がん診療医科歯科連携推進協議会分科会（仮称）出席報告
(7) 各委員会報告について
　学術委員会、厚生委員会、医療管理委員会、地域保健委員会、介護保険委員会、専門学校

２．協議事項

(1) 入会申込書の受理について
　石井　秀幸氏（日立地区）、清水　一氏（水戸地区）両名の入会を受理した。

(2) 平成26年度ＨＩＶ医療講習会の実施について
　標記講習会について、本年度は見送ることとした。

(3) 学術シンポジウム講師謝礼について
　標記謝礼について協議し承認した。

(4) 口腔センター開催の講演会講演料について
　標記講演料について協議し承認した。

(5) 平成26年度第１回地区会長協議会について
　標記協議会について確認した。

(6) 第155回定時代議員会について
　標記について協議した。

(7) 関東地区役員協議会について
　標記について協議した。

(8) 後援名義の使用許可について
　茨城における小児の発達を支える地域リハビリテーションを考える会より依頼のあった標記について、承認した。

会務日誌

５月２２日　第１回備品・消耗品監査を執行。土浦センターと茨歯会館にて、土地、建物、備品、消耗品の管理保管並びに整備状況について監査を行った。

出席者　鈴木監事ほか５名

５月２２日　第１回業務会計監査を執行。業務並びに制度に関する監査（２月１日～３月31日）、会計に関する監査（平成25年度収支決算）を行った。

出席者　鈴木監事ほか５名

５月２２日　在宅医療・介護連携拠点事業の取組成果報告会が県市町村会館にて開催され、標記事業の平成25年度取組成果報告が行われた。

出席者　須能

５月２２日　第２回理事会を開催。入会申込書の受理、HIV医療講習会の実施、学術シンポジウム講師謝礼、口腔センター開催講演会の講演料、第１回地区会長協議会、第155回定時代議員会、関東地区役員協議会、後援名義の使用許可について協議を行った。

出席者　森永会長ほか18名

５月２２日　第２回広報委員会を開催。会報５月号の校正、会報６月号の編集、茨城新聞歯科コラム、関東ブロック役員協議会について協議を行った。

出席者　菱沼広報部長ほか５名

５月２２日　第１回地区会長連絡協議会を開催。シニア共済見直し、日歯選挙人選出、市町村での地域包括支援センターへの歯科の現状、基金活用、準会員（３種）の扱い、市町村での職員歯科検診の実態、医事紛争防止に向け…飯島弁護士からの提言、各市町村の災害時歯科医療協定の推進と現状、フッ化物活用事業、各地区「在宅療養歯科支援診療所名」、各地区オンライン対応医療機関名・非対応医療機関名、提出議題・要望等について協議を行った。

出席者　間宮日立歯科医師会会長ほか28名

５月２３日　境町と茨城西南歯科医師会の間で災害時の歯科医療救護に関する協定を締結し、その調印式が境町役場にて行われた。

出席者　森永会長

５月２３日　第１回オープンキャンパスを実施。歯科衛生士科に26名、歯科技工士科には６名の参加があった。

５月２７日　いばらき専門カレッジリーグタイアッププロジェクト進学相談会が水戸プラザホテルにて開催され、本校ブースには32名の参加があった。

５月２８日　第２回社会保険正副委員長会議を開催。第２回社保委員会、改定後の請求内容、各地区保険講習会、医療アドバイザーの要請について協議を行った。

出席者　榊社会保険部長ほか２名

５月２８日　第２回社会保険委員会を開催。改定後の請求内容、各地区保険講習会、医療アドバイザーの要請について協議を行った。

出席者　小鹿副会長ほか12名

５月２９日　第２回歯科助手講習会を開催。「歯科疾患の概要」「歯科診療の概要」について講議を行った。

受講者　64名

５月２９日　第１回学校歯科委員会を開催。平成26年度事業、各種大会参加者、学校歯科保健研修会、よい歯の学校表彰調査表並びに審査基準について協議を行った。

出席者　長谷部学校歯科部長ほか10名

５月２９日　新規に指定された保健医療機関への集団指導が厚生局茨城事務所にて実施された。

対象医療機関数　６

５月２９日　第２回地域保健委員会を開催。フッ化物活用事業、噛むかむレシピコンテスト、県民歯科保健大会・歯と口の健康フェスティバル、歯科医学会、生活習慣病対策事業（糖尿病協会認定講習会）と禁煙支援研修会、専門職対象中央研修会、学会・大会出張について協議を行った。

出席者　渡辺地域保健部長ほか10名

５月２９日　第２回防災・危機管理プロジェクトチーム会議を開催。警察歯科医増員についての県警との協議結果、茨城県・神栖市総合防災訓練、警察歯科医会全国大会への参加、平成26年度事業計画について協議を行った。

出席者　小鹿防災・危機管理担当理事ほか10名

５月３０日　都道府県会長会議が日歯会館にて開催され、時局問題について協議が行われた。

出席者　森永会長

５月３０日　関東信越地方社会保険医療協議会に係る連絡協議会が東京都歯科医師会にて開催され、各県歯からの提出協議題について協議が行われた。

出席者　鈴木地方医療協議会臨時委員ほか１名

６月　１日　平成26年度日歯生涯研修セミナーを開催。「健やかに生きるための歯科医療～歯をまもる、咬合をまもる～」をメインテーマに、熊本県開業の永田省藏先生、大阪大学大学院歯学研究科教授の前田芳信先生がそれぞれ講演された。

受講者　80名

６月　２日　内外情勢調査会６月例会が水戸京成ホテルにて開催された。

出席者　森永会長

６月　４日　つくば国際会議場の満15年を記念して「感謝のつどい」が同会場にて開催された。

出席者　森永会長

６月　５日　水戸市口腔衛生優良児童生徒表彰式が県民文化センターにて開催された。

出席者　森永会長

６月　８日　口腔センターの主催により障害児・者講演会を開催。「発達障害の理解と言語治療」と題して宮本病院リハビリテーション科 棟方直子先生が講演を行った。

出席者　74名

６月１１日　茨城歯科専門学校戴帽式を挙行。歯科衛生士科２年生47名が小鹿校長から戴帽の儀を受けた。

出席者　204名

学術委員会だより

平成26年度日歯生涯研修セミナー（茨城会場）報告
健やかに生きるための歯科医療
～歯をまもる、咬合をまもる～

学術委員会　上野　卓也

去る６月１日に平成26年度の日歯生涯研修セミナーが茨城県歯科医師会館において開催されました。講師は、熊本県開業の永田省藏先生と大阪大学大学院歯学研究科教授の前田芳信先生です。また、日歯常務理事の中島信也先生にもご参加いただきました。

永田先生の御講演では、咬合（下顎位とガイド）と咬合支持をキーワードに、ご自身の欠損補綴の長期経過症例を提示していただきながら、欠損歯列の評価と補綴設計の実際について解説をしていただきました。また経過不良症例（失敗例ではない！）も提示され、経過不良にいたった原因の解析の中で、パラファンクションの存在とその対処法についての検討がなされ、大きな補綴装置はセメンティングによる一次固定ではなく二重冠を用いた二次固定にして、長期にわたる経過の中で柔軟に対応出来るようにした方が良いのではとの提案もされました。

すれ違い咬合は、咬合の終末期であり、そこに至る前に、あるいは至らない様に、我々歯科医が治療介入していくべきだとのお話には、あらためて、欠損補綴の難しさを感じた次第であります。

前田芳信先生の御講演では、無歯顎症例への対応としてのコンプリートデンチャーの製作にあたり、具体的かつ合理的な、辺縁印象、咬合採得の実際、排列、咬合調整の勘所などが解説されました。

また、インプラントを用いたオーバーデンチャーにおいては、実例の提示をしながら、適切なインプラントの数や配置を考慮した設計が重要であるということや、アタッチメントに対してのリリーフの必要性についても解説いただけまし

た。さらにインプラントの有効性として、加圧、受圧因子が改変されることにより、補綴設計の有利な改変（特にすれ違い咬合の場合など）が可能であることも提示いただけました。

臨床術式を御提示される中で、なぜこのアプローチが必要なのか、前田先生の研究室で得られたエビデンスにもとづいて解説していただいたことは、貴重なことでありましたし、また大いに納得させられました。

超高齢化社会に突入した現状において、いかにして補綴装置を長期間機能させるのか。また、いかにして最終的な補綴装置であるコンプリートデンチャーへソフトランディングさせるのか、といったことが、今後の我々の臨床の現場において喫緊の課題であることはいうまでもありません。

今回の日歯生涯研修セミナーは、この課題に関して、一つの方向性が提示されていることは間違いなく、非常に意義深いものであったと思われます。

それでは、次頁以後に、当日の講演内容の要約を提示させていただき、平成26年度の日歯生涯研修セミナーの報告とさせていただきます。

介護保険委員会だより

平成26年度　介護保険講演会および在宅医療・介護の講演会

（社）鹿行歯科医師会　介護保険委員会　　内堀　史朗

平成26年４月27日（日）神栖市平泉コミュニティセンター多目的ホールにて、介護保険講習会が医科、歯科、介護など、専門職約150名参加のもと開催されました。鹿行歯科医師会　丸山憲一先生の進行により、県歯副会長　鈴木潤一先生の挨拶の後、日本大学歯学部摂食機能療法学講座教授　植田耕一郎先生による講演が行われました。

植田先生は、昭和58年日本大学歯学部卒業後、東京都リハビリテーション病院勤務、新潟大学歯学部加齢歯科学講座助教授を歴任され、現在、日本大学歯学部摂食機能療法学講座教授に至ります。平成17年度より、厚生労働省介護予防検討委員会　口腔機能向上支援マニュアル研究班主任研究者として、御活躍中であります。

「要介護高齢者に対する食事支援 ～摂食機能の着眼点と食事介助の手技、考え方～」という演題で講演が行われました。特に考え方について、十人の高齢者を対応すれば、十通り対応方法がある。それはそれぞれ歴史があるからです。それだけの対応があるからこそ、ぶれない理念が必要であるとおっしゃっておりました。

「咀嚼期障害に対する食事介護の留意点として」

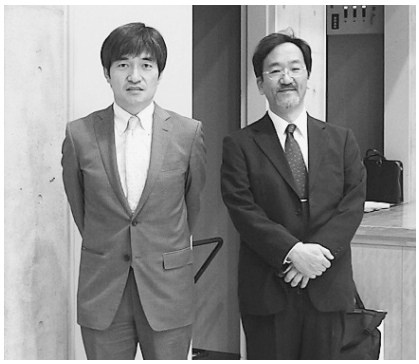
１．ある程度こぼすのは「良し」とします。

　こぼすのは咀嚼運動をしている証拠であり、頬が麻痺して唇がうまく閉じられない。だからこぼしてしまう。でも、口に入れたもの全てをこぼしているわけではないので、こぼしているうちは咀嚼運動をしているという目安にしてもらいたい。

２．姿勢が麻痺側に傾斜しないよう、整えます。

　例えば、左側が麻痺しているならば、左の肘、肩が下がってみえますが、そうではなく、体幹が下がっているので、背中の後ろにマットを入れて、体幹ごと体を起こす。体幹ごと姿勢を整えるために、マット等を麻痺側の背中にあてがいます。

３．健側口腔内（得意とする側）に食物を挿入します。



右側が麻痺しているのであれば、右の方に注意がいきづらい、噛みづらい。であれば、左側の注意がいきやすい方、噛みやすい方から介助する。すなわち、得意とする側から食物を挿入する。人それぞれに、得意、不得意があり、食事のメニューや姿勢の得意をみつける事が必要です。

「電動歯ブラシ、義歯による食前の刺激訓練」

電動歯ブラシを歯、歯茎にあてるのではなく、頬にあてる。左側、右側、交互に30秒あてるとどんどん唾液がでてきます。これは、食前の口腔ケアであり、唾液で潤してから食事をはじめるという事になります。また、義歯を入れて食事ができないのであれば、食事の前に義歯を入れ、顎の下をおさえてカチカチカチと、可動的にタッピング運動をする。10回噛めば10％の脳血流が上がるといわれています。カチカチ音がダイレクトに脳に響く事により脳が覚醒し脳血流が上がり、当然、唾液もでてきます。義歯というのは、本来、食事の時に入れなければいけないと思うかもしれませんが、使われない筋肉がどんどんやせていってしまい生じる咬筋の廃用萎縮の予防、意識状態覚醒のための装置、嚥下訓練の装置、唾液分泌促進のための装置として使用する。これを、20回、30回としてもらい、その後、食事をするから、訓練が終わりましたから、入れ歯を外しましょうという考え方もあると思います。

最後に、「介護は決して医療ではない、治そうとか、よくしようという話ではないと思います。考えが変わらないから尊いもの、そのような価値観をもって、そして技術は大事ですが、考え方、取り組み方の姿勢、その部分がゆらいでしまうと、せっかくの技術が台無しになってしまうので、その辺りところを考えながら介護に取り組んでいけたらいいのではないかと思っております。」という言葉で締められました。

講演内容の一部を紹介させて頂きましたが、他にも貴重なお話を頂戴し、ありがとうございました。植田先生の介護に対する取り組み、熱意を感じ、大変勉強になりました。

最後に、潮来保健所　石田所長の挨拶と、県歯介護保険担当理事　仲田先生より感謝状、記念品の贈呈があり、講演は終了となりました。

当日のアンケート結果では、口腔ケア、食支援に関しての悩み、連携作りの困難さが伺え、この結果を今後の活動に生かしていきたいと思います。

学校歯科委員会だより

第71回学童歯みがき大会

学校歯科委員会　椎名　和郎

平成26年６月４日（水）、第71回学童歯みがき大会が開催されました。この大会は第65回大会からインターネット同時配信がスタートし、今年は日本全国の小学校約21,500校の5.4％にあたる1,162校約６万６千人の児童が参加しました。また、韓国、中国、台湾、香港、ベトナム、フィリピン、シンガポール、タイの日本人学校も参加しています。

茨城県では、第66回大会に水戸市立新荘小学校が参加し、その後、11校、13校、46校、66校と年々参加校が増加し、今年は101校で参加校数全国第２位（！）となりました。

また、昨年から歯科衛生士養成校も参加するようになり、茨城歯科専門学校も２,３年生97名がリリーベール小学校の生徒と一緒に参加しました。

今年のテーマは「みるぞ！みがくぞ！つくるぞ元気！」です。

まず初めは「健康生活をチェックしよう」です。日常の生活習慣についてチェックシートへ記入しました。

今年も多くのクイズがありました。

Q：歯ぐきの色がピンク色なのは歯ぐきの中の血管が透けてみえるからである（Y／N）

Q：ペットの犬は歯肉炎になりますが、では猫も歯肉炎になるでしょうか？（Y／N）

Q：歯肉炎は歯と歯肉の境目から起こる？それとも歯の根の先から起こる？

などです。

児童はあらかじめ渡されていた片面が黄色、反対側が緑の団扇を使って回答します。

次に、「歯ぐきのサインを見逃すな！」というコーナーに入りました。

健康な歯肉と、炎症がおきている歯肉のイラストを比較し、炎症が起こっている歯肉の特徴を調べます。

Q：（健康な歯肉と歯肉炎のイラストを見て）どちらが健康な歯肉だとおもいますか？

というクイズの後で、色はどうか？形は？硬さ

は？出血は？と観察していきます。次に、自分の歯肉を鏡で見て観察しました。そして、安井先生から歯ぐきのサインに気づいたら、「歯と歯肉の境目を意識して歯みがきすれば改善します」、というお話がありました。

「では、どのように歯みがきすればいいのでしょうか？」ということで、次は、歯のみがき方ステップアップ講座です。

1）歯垢がつきやすい場所
2）歯ブラシの当て方
3）歯ブラシは1cmを目安に動かす
4）軽いちょうどいい力でみがく
5）1カ所20回以上みがく

という解説のあと実習に入り、①歯の外側、②奥歯の内側、③奥歯のかみ合わせ、④前歯の裏側、⑤前歯の生えている途中の歯、⑥奥歯の生えている途中の歯、について練習しました。さらに今年はデンタルフロスの使い方も練習し、最後に歯ブラシの交換時期についての説明がありました。

私はリリーベール小学校でこの中継を見学し、あとで内容についていくつか質問してみましたが、児童はとてもよく理解していました。

学校歯科医の職務には歯科検診だけでなく、事後措置も含まれます。この学童歯みがき大会のインターネット中継は、対象が小学校4,5,6年生ですが、1時30分から2時30分とほぼ5時限目に収まるようにできていますし、内容も分かりやすいので、事後措置の一つとして活用されてはいかがでしょうか。

今年4月に出された「学校保健安全法の一部改訂について」（茨城県歯科医師会ＨＰ→医療関係者の皆様へ→学校歯科保健関係者の皆様へ、の中にもあります）の最後には「子供たちの健康課題については、『学校病』に限らず、健康診断によって異常を指摘された場合には、まずは医療機関に適切につなげることが重要。きちんと医療機関を受診することや、その後も治療終了まで通院することなどが大事であることについての理解を得る必要がある。例えば、歯科保健に重点的に取り組むことで、子供や保護者の健康全体への関心が高まったという事例もあり、そのような取り組みを通して、子供や保護者の健康への意欲を高めていくことも大事である。」と書かれています。

来年の歯みがき大会の募集は今年の11月頃から始まると思います。ご興味のある方はライオン歯科衛生研究所のホームページ（http://www.lion-dent-health.or.jp/）をご覧ください。

アイ・デー・エスは…

医師賠償責任保険　火災保険
所得保償保険　小規模企業共済制度
自動車保険　生命保険

…など各種保険の代理店、集金業務を行います。新規加入、増額変更、何なりと御用命下さい。
（アイ・デー・エスは、イバラキ・デンタル・サービスのイニシャルです。）

有限会社 アイ・デー・エス
代表取締役 森永和男
水戸市見和2丁目292番地　茨歯会館内　TEL:029(254)2826

センターだより center

日帰り全身麻酔下歯科診療の導入にあたって

茨城県身体障害者小児歯科治療センター

鬼澤　璃沙、関口　浩、村居　幸夫、
征矢　亘、森永　和男

私が、障害者歯科に関わって、早１年が過ぎました。茨城歯科専門学校より異動となり、環境が大きく変わり、初めての臨床に戸惑うことも多くありました。最初は患者さんに対し、どのように指導すればよいか分からず戸惑いましたが、先輩方が患者さんに対してTSD法、10カウント法、絵カードを使用した行動調整を行っている様子などを間近で見て、非常に勉強になりました。見て学んだことを実際の診療で行ってみると、上手くいかない時もありますが、最後まで上手にPMTCなどを行えると患者さんの保護者の方も嬉しそうにしており、こちらも嬉しく思います。患者さんはとても素直で、嫌なことは嫌、楽しいことは楽しいと、そのままの気持ちを素直にあらわしてくれます。そんな患者さんと触れ合いながら、毎日楽しく診療を行っております。

水戸口腔センターでは、今年度より日帰り全身麻酔下歯科診療を導入しました。全身麻酔を始めるにあたり、村居先生、関口先生、森永先生をはじめ全身麻酔機械関係の業者の方々にも来て頂いて、“全身麻酔シミュレーション”を３、４、５月の計３回行いました。機械の取り扱い方を説明していただいたり、麻酔導入前の患者さんに対する確認事項、導入後の流れなどを行いました。麻酔導入時では、麻酔医との器具の受け渡しがいかにスムーズに行えるかが重要だと感じました。次にどの器具を使用するのかなど、きちんと理解しておかなければならないと感じました。昨年、石岡第一病院の全身麻酔のオペを何度か見学させていただきました。オペ室では、清潔域・不潔域を徹底しており、看護師の方に器具の管理の仕方や滅菌方法など様々なことを教えていただきました。また、オペ前の機械の準備・作動確認の様子や、麻酔導入時の様子も見学させていただいて、

器具の受け渡しなどもスムーズに行っており、患者さんに対しての声かけもしっかり行っているのを見て、私も患者さんへの配慮を忘れずに行えるようにしようと感じました。

患者さんに何か起こってしまった場合、私たちはすぐに対応しなければなりません。そこで、３月８日（土）水戸医療センターで行われました「BLS講習会」を受講してきました。そこで実際に、BLSの手順“C-A-B”（C：胸骨圧迫、A：気道、B：呼吸）を体験してきました。実際に体験してみると、予想以上に体力を消耗しましたが、繰り返し行っていくと自然と体で覚えていくのを実感しました。成人・小児・乳児では、胸骨圧迫の方法や回数が異なることや、１人法と２人法、バッグマスクを使用した場合など多くのことを学ぶことができました。全身麻酔を行っていく中で、いつ何が起こるのか分からない為、スタッフ内で救急車を呼ぶ人、AEDを持ってくる人など、役割分担を決め、円滑に対応できるようにしなくてはなりません。今回のBLS講習会で学んだことを忘れないよう、きちんと復習し、今後に活かしたいと思います。

全身麻酔が始まるにあたって、覚えることも多くありますが、患者さんや保護者の方々も安心して受診していただけるような環境を作っていきたいと思います。また、スタッフ全員と協力し、安全に診療を行っていけるよう、努めていきたいと思います。

原稿募集

身近な出来事から臨床まで皆さまのご意見・感想を載せてみませんか。
「茨歯会報」は会員皆さまの会誌です。臨床におけるヒントや趣味、旅の思い出など、また地区歯科医師会や同好会・同窓会の様々な活動（研修会、厚生事業）など何でも結構です。会報をフルにご活用下さい。
Ｅメールの投稿で結構です。形式はどんな形式でもかまいませんが、出来ればテキスト、ワード、一太郎、にてお送り下さい。
詳しくは、茨歯会事務局まで。

E-mail　id-05-koho@ibasikai.or.jp

広報委員会

専門学校だより

【茨城新聞進学相談会への参加】

５月27日（火）13：00～18：00、水戸プラザホテルにて茨城新聞社主催（栄美通信進行）により大学、短期大学、専門学校関係者を集めての高校生、保護者、教員に向けた進学相談会が行われ、本校も学生・専任教員・事務員合わせて９名で担当してきました。

全体の参加者数は昨年より380名程多い1,165名で大変盛況でした。

専門学校相談ブースでは、学校の案内資料を配布しながら説明をしてきました。本校ブースには32名の高校生が参加し、中にはすでに衛生士科に進路を決めている生徒もいたようでした。

また、特設会場として、本校を含めた５校による「いばらき専門カレッジリーグの特別体験コーナー」を設け、各学校ともその特色を出した体験内容にて、参加する高校生たちに魅力を伝えてきました。

歯科技工士科では様々な技工物を展示し、歯科材料を使用したキーホルダー作りを体験してもらいました。マイクロモーターを使い、それぞれの個性が出た作品ができて、皆喜んで持ち帰りました。

歯科衛生士科では、口腔内の細菌観察や、模型とスケーラーを使って実際に授業で行う内容を体験してもらいました。参加した高校生は本校での学校生活の説明なども真剣に聞き入っている様子でした。

各高校とも限られた時間でしたが、体験コーナーには21名の高校生が参加してくれました。進路を決めている生徒、まだ検討している生徒と様々でしたが、各科ともその魅力をアピールできたのではないかと思います。

（文責　中村）

【歯科技工士科親睦会】

歯科技工士科の新入生を迎えて、学生相互あるいは専任教員との親睦を深めるための恒例行事として、５月16日（金）に水戸市のグリーンボウルにて学生の進行によりボウリング大会が行われました。１学年13名、２学年13名、専任教員３名が参加しました。

数日前からこの日に向けて、個人的に練習するという学生も見られ、それぞれが気合い十分でゲームに臨みました。

普段は授業が忙しく、学年間の交流があまりない中で、この日はスポーツをしながら楽しく会話もでき、ピンを倒すたびに歓声が上がるなど、日頃の授業でのストレスを解消しながら親睦が深められたようです。

最後には各チームごとの平均スコア、個人スコアでの上位者に豪華賞品！？も渡され、楽しいひとときを過ごせました。

あっという間の時間でしたが、この日は授業から解放され、体と心を少しリフレッシュできた様子で、また新たな気持ちで授業に取り組めるのではないかと思います。

（文責　川崎）

電話相談のお知らせ

現在、茨城県歯科医師会では会員の方々の様々な疑問、問題に対処できるよう以下の3名の専門家と顧問契約を結んでおります。

顧問弁護士	**大和田一雄氏**	法律相談全般
医療アドバイザー	**古川　章氏**	保険請求や各種届出などに関すること
社会保険労務士	**皆川雅彦氏**	従業員との労働契約、労務関連など

相談したい事柄がございましたら、お気軽に茨歯会事務局まで電話、またはFAXにてご連絡ください。各先生との相談の日程などの調整、あるいは後日回答できるように致します。ただし、相談は無料ですが、その後は個別対応となります。

茨城県歯科医師会事務局
電話　029-253-2561
FAX　029-253-1075

地区歯科医師会だより
Ibaraki Dental Association

◇◆◇ 水戸市歯科医師会 学術講演会のご案内 ◇◆◇

水戸地区では「明日の臨床に活かす」という統一テーマのもと、講演会を企画しております。
今回は下顎総義歯の吸着で有名な阿部二郎先生に御講演をいただきます。
下顎総義歯安定のヒントをご教示いただき明日からの臨床に活かしましょう。

統一テーマ：明日の臨床に活かす

今回の演題：「臨床・下顎義歯の吸着」

講師：阿部　二郎先生
阿部歯科医院院長、Japan Denture Association 代表
東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴科　臨床教授
神奈川歯科大学顎咬合回復補綴医学講座　客員教授

日時：平成 26年 7 月13日（日曜日） 10：00～13：00

場所：茨城県歯科医師会館 3 F 講堂

参加者：歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士・歯科医療従事者

会費：無料

◇◆◇　講演抄録　◇◆◇

無歯顎患者を相手に総義歯を作ろうとするとき、いつも問題となるのは下顎で、下顎総義歯がうまくできれば無歯顎治療は成功といっても過言ではないでしょう。歯科医師誰もが苦い経験するように完成義歯装着時に口を開く度に浮き上がってくる義歯を調整する時ほどストレスを感じることはありません。反対に下顎総義歯が顎堤に吸着すると大変楽に咬合調整が行えるので義歯の具合がいっそう良くなり“患者も満足”、“術者も満足”といったなんともいえない成功感が漂います。誰もがうまくいったと胸をなで下ろすことでしょう。

一般的に無歯顎治療の成功や失敗は、術者の技術と患者の持つ条件に左右されますが、ここ近年、無歯顎者の顎堤がどんどん悪くなっているにもかかわらず下顎総義歯が吸着し患者に喜ばれたという話を耳にすることが多くなりました．それは偶然なのでしょうか、あるいは何か特殊なテクニックが隠されているのでしょうか。

今回は視点を無歯顎の顎堤から口腔粘膜に向けた下顎総義歯・吸着の臨床テクニックについてお話し、皆さまの明日からの臨床にお役に立ちたいと思います。

※駐車場に限りがあるため可能な限り公共交通機関のご利用、車の乗り合わせ等をよろしくお願い致します。

日歯生涯研修ICカードをご持参ください　　E-system 登録用　短縮コード： 99283

茨歯アンテナ

2014年 6 月 5 日（木）読売新聞

歯削る機器使い回し

高い滅菌費 改善の壁に

多くの歯科で、歯を削る医療機器を滅菌せずに使い回している実態が明らかになった。ウイルスや細菌を患者にうつす心配があり、国は4日、滅菌を徹底するよう都道府県などに通知した。しかし患者ごとの機器交換は多額の費用がかかるため、一部の歯科は及び腰だ。

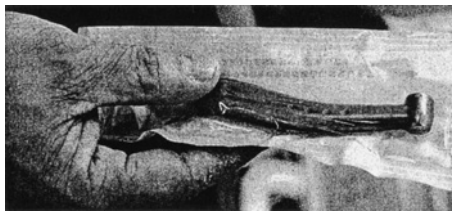
医療部 渡辺理雄

東京都内の病院の歯科に勤める歯科医は、他の病院から数年前に着任し、現場の不衛生さに「これはひどい」と驚いた。

歯を削る機器（ハンドピース）を使った後は、表面をアルコールで拭いて終わり。滅菌しないまま次の患者に使う。ゴム手袋も使い回しだ。改善しようと他の歯科医や歯科衛生士に働きかけたが、仕事が増えることを理由に拒まれた。近く、病院は辞める考えだ。

ハンドピースを使うと、患者の血液や唾液が表面に付いたり、機器の内部に入り込んだりする。血液などにはウイルスや細菌が潜んでいる心配があり、消毒や洗浄では病原体を完全になくすことはできない。

歯科で患者がウイルスなどに感染したという国内の報告はないが、米国ではB型肝炎ウイルスの感染例がある。B型肝炎は、倦怠感や発熱など症状が出るまでに1～3か月の潜伏期があり、原因の特定が難しい。国内での感染は「ない」のではなく、「分かっていない」という表現が正しい。



滅菌パックに入った歯科の「ハンドピース」。使う直前に取り出す

このため日本歯科医学会の指針は、機器の使用後は、高温の蒸気で病原体を死滅させる滅菌処置を施し、患者ごとに滅菌された機器に交換することが勧められている。しかし、指針は必ずしも守られていない。

国立感染症研究所の泉福英信室長の研究班が、特定の県の歯科医療機関に行った調査によると、「（患者ごとに機器を）必ず交換」は34％で、残りの66％の歯科では滅菌せずに複数の患者に使っていた。

滅菌しない理由として多くの歯科医があげるのが、費用の高さだ。ハンドピースは1本約20万円。滅菌には1回30分程度はかかるため、患者ごとに交換するには少なくとも倍の本数をそろえなければならない。

埼玉県草加市のある歯科医院では、ハンドピースを120本そろえ、午前と午後で滅菌を3回ずつ行っている。院長は「滅菌に手間がかかる分、歯科衛生士や歯科助手を多く雇っている。高熱の蒸気にかけるため、機器が傷み、修理回数も増える」と説明する。

患者ごとに機器を取り換えると国に届け出た歯科医療機関は、診療報酬で新規患者は260円、再診患者は40円を毎回それぞれ上乗せして請求することが認められているが、「その金額ではとても見合わない」（同院長）という。

国は歯科に滅菌の徹底を求めていく考えだ。これが掛け声倒れに終わらないように、診療報酬による評価の議論と機器の取り扱いへの指導を、並行して進める必要がある。

ただ、全ての歯科が対策を講じるまでには時間がかかる。患者ができる「自己防衛策」はないのだろうか。

まずは、滅菌されたハンドピースかどうか、診療の際に尋ねてみることだ。滅菌された機器は「滅菌パック」という透明な袋に入っていたり、紫外線で清潔な状態を保つ装置に保管されていたりする。患者の椅子の近くに取り付けられたままになっているのは、滅菌されていないとみてよい。

ハンドピースの取り換えを届け出ている歯科は約7000あり、歯科医で作る院内感染防止対策促進協議会のサイト（http://kansenboushi.com/）が届け出施設の一覧表を掲載している。これら施設が実際に滅菌しているかどうか保証はできないが、歯科を選ぶ時の参考にはなる。

歯科は全国約7万施設のうち、98％が小規模な診療所だ。雇われている歯科衛生士などの立場は弱く、院内のチェックが利きにくい。歯科の姿勢を改める一番の特効薬は、患者の厳しい目かもしれない。

2014年 6 月 5 日（木）茨城新聞

歯みがきのこつ学ぶ

かすみがうら牛渡小 全国大会にネット参加

鏡を手に歯ブラシの使い方を練習する児童＝かすみがうら市牛渡の市立牛渡小

小学生の歯と口の健康のための「第71回学童歯みがき大会」が4日、東京都千代田区の歯科医師会館で開かれ、本県からも小学校101校がインターネット回線を通じて参加した。

かすみがうら市牛渡の市立牛渡小学校（高野修一校長）では5、6年生27人が参加。児童らはクイズに答えながら、①生活習慣や食生活が歯の健康に重要②歯茎を観察して歯肉炎のサインを見逃さない③歯肉炎は毎日の歯磨きで防げる―ことなどを学んだ。

児童は画面を通して、歯の部位ごとの歯ブラシの使い方や、しっかり磨くこつの指導を歯科衛生士から受け、手鏡と歯ブラシを手に練習していた。

5年生の根本彩さん(10)は「歯の健康が体の健康に大切だと分かった。きょう習った仕方できちんと歯磨きをする」と感想を話した。

同小は「歯ピカデー」や親子歯磨き教室により歯と口の健康啓発に努めている。

1931年に始まった同大会は、戦中の一時期を除いて開催され、2008年からインターネット配信を開始。12年はネット参加により全国規模へと拡大し、今年は海外も含め1162校から6万6千人が参加した。

（芳賀和生）

2014年 6 月10日（火）茨城新聞

歯の健康や衛生管理学ぶ

城里で保護者ら50人

城里町桂地区の小中学校の保護者などが参加した合同学校保健委員会＝城里町阿波山

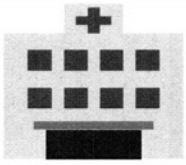
城里町桂地区の合同学校保健委員会が6日、同町阿波山の町立桂中で開かれ、同地区の沢山小、桂小、桂中で保健委員を務める保護者など約50人が、酸性の飲食物で歯が溶ける「酸蝕歯」や梅雨時の衛生管理について学んだ。

同委員会は桂地区の小中連携事業で、保護者や教諭で組織する各校の保健委員会を初めて合同で実施した。

同地区学校歯科医の伊藤博司さんが「酸蝕歯」を説明。同症状は、清涼飲料水やフルーツなどに含まれる酸が歯のエナメル質を溶かし、つやの消失やすり減りが起こる。伊藤さんは過剰摂取となる市販飲料を紹介し、「子どもが小学生の時期から気を付けるべき」と注意を促した。

町学校薬剤師の黒沢忍さんは食中毒などを防ぐ梅雨時の衛生対策を解説、「食品の保存や調理など、この時季は特に菌を増やさないよう意識してほしい」と呼び掛けた。

病院荒しにご注意を！



連続病院荒し被疑者を検挙しました！

本年１月頃から県南・県西地域及び埼玉県内で、個人病院などを対象とした侵入窃盗事件が連続発生しておりましたが、本年６月３日、境警察署・取手警察署・捜査第三課の合同捜査班により病院荒しの被疑者を通常逮捕しました。

6月4日 茨城新聞記事より

窃盗と建造物侵入疑いで男逮捕　境署と取手署、県警捜査3課の合同捜査班は3日、窃盗と建造物侵入の疑いで、千葉県野田市清水、自称土木作業員、藤森義弘容疑者(43)を逮捕した。逮捕容疑は5月13日午前7時10分～同45分の間、さいたま市見沼区大和田町2丁目の歯科医院に侵入し、現金約11万円を盗んだ疑い。境署によると、藤森容疑者は容疑を認めている。本県内では1月ごろから、取手市を中心に歯科医院を狙った窃盗事件が十数件発生しており、関連を調べている。

しかし・・・犯人は他にもいます。
そこで、病院関係者の皆様にお願いです！

◎医薬品の厳重な保管を

犯人は、現金や貴重品だけでなく、病院で保管している毒物や劇物を狙うことも考えられます。これら医薬品が盗まれれば、人の生命・身体が危険に晒される重大な二次犯罪に使用されるおそれがあります。

危険性がある医薬品については、法律の規定に基づいた厳重な保管環境を整えてください。

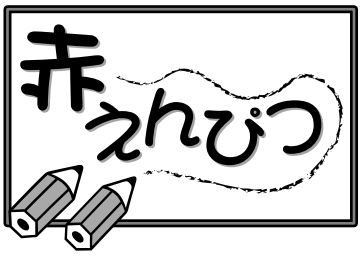
◎不審者を発見したら直ちに通報を

犯人は、犯行前に必ず下見を行います。昼夜を問わず、病院敷地内やその付近に不審者や不審な車を見かけた場合は、【不審者の体格・服装、不審車両の車種・塗色・ナンバー等】をしっかりと確認して、直ちに警察に通報してください。

「もし勘違いだったら…」という迷いは不要です。躊躇することなく110番通報してください。

※ あなたの通報が犯人検挙につながります。
情報提供をお願いします！

茨城県警察本部 捜査第三課
（TEL　代表 029-301-0110）



日本は1998年W杯フランス大会に初出場以来、今回のブラジル大会まで５大会連続の出場となった。アジアにおいてはW杯出場常連国となったが、やはり欧州、中南米の強豪国と比較すると見劣りする事は事実。今回の予選リーグはコートジボアール、ギリシャ、コロンビア。初戦が全てではないだろうか。身体能力が高く、ここ近年は戦術理解度も増してきたアフリカ勢。勢いに乗ると手を付けられないが、精神的な脆さを持ち合わせるのは国民性といえるのか。前回の南ア大会においては、今回同様アフリカ勢（カメルーン）と初戦で対戦。実力はあるものの、選手と監督とに感情的対立が発生して日本に敗戦。

結果、前評判は高かったものの３戦全敗で姿を消した。しかし、日本もほめられたものではなかった。開幕前の練習試合では連敗し、絶望の２文字しかなかった。ある意味博打とも取れる直前のシステム変更にて決勝トーナメントに進出したが、この大会の決勝トーナメントのうちで最もつまらない試合と酷評された。４年後の今年、直前の親善試合で３連勝。しかも、先制されながらも逆転勝ちと話題性は満点。しかし、直近のザンビア戦の前半の試合内容には不安。完全に個で負けていた。コートジボアール戦もこのような展開が予想されるため、残りの期間を有意義に使って本戦に臨んでほしいと願った。そして15日10時にコートジボアール戦は開始された。本田選手のゴールで先制するも、後半半ばでの悪夢の２分間。残念な結果に終わったが、残り２試合の健闘を願いたい。この号が皆様のお手元に届く頃には、W杯は決勝トーナメントに突入している。日本時間の未明（午前１時）と明け方（午前５時）が試合開始時間。夜更かし、或いは早起きの日々が続く。

（hiro）

先日、地区歯科医師会の皆さんとおとなの社会見学？バスツアーで、自民党本部と国会議事堂を見学してきました。写真や車窓からは見たことがあるのですが、中に足を踏み入れたのは人生で初です。地元選出の国会議員の案内で自民党総裁室、会議室を見せていただき、総裁の椅子に座っての記念写真撮影、サプライズで石破幹事長との集合写真、テレビで活躍している東京選出の平将明議員とのミニ講習会などなど（石井みどり先生は、参議院本会議の日で会えませんでした）。その後、徒歩にて国会議事堂へと移動し、参議院見学。写真撮影ができないのが残念でしたが、歴史ある建物で、議場の天井のステンドグラスや天皇陛下の御休所、御休所前広間など圧倒されました。（中庭では鯉も泳いでいてビックリ）

見学の後は浅草にて昼食を食べ（すき焼き、これも店で食べるのは人生初！旨すぎでした）、浅草寺をお参りしてきました。政治がちょっと身近に感じられる貴重な一日でした。

（松）

集団的自衛権

まったく、大変な事態だと思う。憲法という国の基本中の基本の規範の、しかも根幹となる条文が一内閣の解釈によって、捻じ曲げられようとし

ている。これまで、「専守防衛」のみを認めてきた歴代内閣から一転、安倍内閣は圧倒的な数の論理で「集団的自衛権」、さらには、安保理の決議に従い他国に軍事介入できる「集団安全保障」まで可能とする解釈を閣議決定しようとしている。湾岸戦争時の米国のshow the flagに応えられなかったトラウマか、あるいは安保理理事国入りのためか。

「自衛隊に入ると、死んじゃうよ。」という時代になったら、これまでと同じように職業として自衛隊に入る若者はいるだろうか。いずれ徴兵制ということにもなりかねない。日本国内での9.11のようなテロも現実の話となって行くだろう。

戦後70年の平和ボケにどっぷり浸かってきた我々が、今、真剣に声を上げる時である。司法の力にも期待したい。

MOZU

久しぶりに、ドラマにはまっている。恥ずかしながら、百舌を「もず」と読むことも、「百舌のはやにえ」という言葉も初めて知った。主役の西島秀俊、脇を固める香川照之がいい。

警察、公安の秘部を描くが、かなり強烈でグロいシーンも多く、大学１年生の娘は途中から見なくなった。

今時のドラマには珍しく、この二人が、ほとんどのシーンで煙草を燻らせる。情けないが未だに愛煙家の私には、妙な共感を覚えた。JTがスポンサーだったか？

TBSでのSEASON１は終了し、WOWOWでのSEASON２がいよいよ始まる。数多く残された「謎」が明らかになる。

みがこーモン

お気づきの方もいるかもしれないが、本会ホームページから、「みがこーモン」の文字が消えました。この５月、日歯の「よ坊さん」の版権（肖像権）を持つ株式会社電通より、「よ坊さん」使用規定に関する改訂版が出され、基本的に「ご当地よ坊さん」は、「よ坊さん」が変装したもので、「ご当地よ坊さん」に特定の名前を付けるのもNGですと言うことに対応しました。

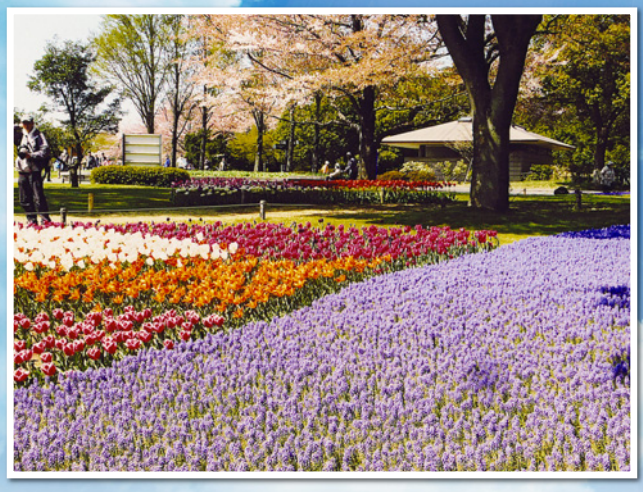
一昨年の100周年記念事業の一環として公募にて決定し、大久保会長からも「とてもいい名前ですね」とのお褒めの言葉もいただいた「みがこーモン」。

他の都道府県で「ご当地よ坊さん」に愛称をつけているところはないようですが、広報委員会としては、「みがこーモン」という文字をデザインに付随させなければ肖像権の侵害には当たらず、呼称としての「みがこーモン」は使用して差し支えないと判断し、従来通り使用していきます。

（Hissy）

みんなの写真館

Photo Gallery



（社）茨城県南歯科医師会　　斉藤　澄夫

会　員　数

平成26年5月31日現在

支　　部	会員数（前月比）
日　　立	121　＋1
珂　　北	142
水　　戸	156　＋1
東西茨城	73
鹿　　行	102
土浦石岡	174
つ　く　ば	115
県　　南	179
県　　西	156
西　　南	106
計	1,324　＋2

1種会員	1,138名
2種会員	46名
終身会員	140名
合　　計	1,324名

みんなの写真館写真募集 !!

　このページには皆さんからの写真を掲載できます。表紙写真に関連した写真、御自宅の古いアルバムに埋もれた写真などを御送り下さい。

Ibaraki Dental Association
公益社団法人 茨城県歯科医師会

茨　歯　会　報

発行日　　平成 26 年 6 月
発　行　　茨城県歯科医師会　水戸市見和 2 丁目 292 番地
電　話　　029(252)2561～2　FAX　029(253)1075
ホームページ　http://www.ibasikai.or.jp/
E-mailアドレス　id-05-koho@ibasikai.or.jp

発行人　　征矢　　亘
編集人　　菱沼　一弥

VEGETABLE OIL INK　この会報には、環境に配慮して植物油インキを使用しております。